

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2009-291397

(P2009-291397A)

(43) 公開日 平成21年12月17日(2009.12.17)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 6 1 B 5/00 (2006.01)	A 6 1 B 5/00 M	4 C 0 8 3
A 6 1 K 8/34 (2006.01)	A 6 1 K 8/34	4 C 1 1 7
A 6 1 K 8/33 (2006.01)	A 6 1 K 8/33	
A 6 1 K 8/37 (2006.01)	A 6 1 K 8/37	
A 6 1 B 5/01 (2006.01)	A 6 1 B 5/00 N	
審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 13 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号	特願2008-147735 (P2008-147735)	(71) 出願人	390011442
(22) 出願日	平成20年6月5日 (2008.6.5)		株式会社マンドム
			大阪府大阪市中央区十二軒町5番12号
		(74) 代理人	110000280
			特許業務法人サンクレスト国際特許事務所
		(72) 発明者	村田 陽子
			大阪市中央区十二軒町5番12号 株式会
			マンドム中央研究所内
		(72) 発明者	三野 浩二
			大阪市中央区十二軒町5番12号 株式会
			マンドム中央研究所内
		(72) 発明者	遠藤 祐子
			大阪市中央区十二軒町5番12号 株式会
			マンドム中央研究所内
		最終頁に続く	

(54) 【発明の名称】化粧料の選択方法

(57) 【要約】

【課題】使用者がヒリヒリとした痛みや灼熱感などを感じないように、使用者に適した清涼感の強度を有し、清涼剤を含有する化粧料を簡便かつ的確に選択することができる化粧料の選択方法を提供すること。

【解決手段】清涼剤を含有する化粧料を選択する化粧料の選択方法であって、その化粧料を使用する者の皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に応じて、使用者に適した清涼感の強度を有する化粧料を選択することを特徴とする化粧料の選択方法。

【選択図】なし

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

清涼剤を含有する化粧料を選択する化粧料の選択方法であって、その化粧料を使用する者の皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に応じて、使用者に適した清涼感の強度を有する化粧料を選択することを特徴とする化粧料の選択方法。

【請求項 2】

あらかじめ皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に応じて化粧料を分類しておき、その分類された化粧料の中から、その化粧料を使用する者の皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に該当する化粧料を選択する請求項 1 に記載の化粧料の選択方法。

【請求項 3】

化粧料の清涼感を基準にしてあらかじめ皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に応じた化粧料を分類しておく請求項 2 に記載の化粧料の選択方法。

【請求項 4】

清涼剤が、メントール、メンチルグリセリルエーテル、カンファー、メンチルラクテートおよびサリチル酸メンチルからなる群より選ばれた少なくとも 1 種である請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の化粧料の選択方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、化粧料の選択方法に関する。さらに詳しくは、その使用者に適した清涼感の強度を有し、清涼剤を含有する化粧料を簡易かつ的確に選択することができる化粧料の選択方法に関する。なお、前記化粧料としては、例えば、皮膚用化粧料、頭髮用化粧料などが挙げられる。

【背景技術】

【0002】

使用者の肌の状態に適合した化粧料を簡便に選択する方法として、あらかじめ皮膚が必要とする機能を年齢によりクラス分けし、使用者が属するクラスに対応する機能を有する化粧料を選択する化粧料の選択方法が提案されている（例えば、特許文献 1 参照）。

【0003】

しかし、この化粧料の選択方法では、化粧料の使用者の年齢しか考慮されておらず、例えば、清涼剤を含有する化粧料を用いた場合、同一年齢であっても化粧料の清涼感の感じかたに個人差が大きく、使用者によっては爽快感とは感じずに、ヒリヒリとした痛みや灼熱感などとして感じる可能性があることから、清涼剤を含有する化粧料を適切に選択することができないという欠点がある。

【0004】

そこで、本発明者らは、清涼剤を含有する化粧料を適切に選択することができる化粧料の選択方法が記載されている文献の調査をしたが、そのような化粧料を適切に選択することができる化粧料の選択方法が具体的に記載されている文献が発見されていない。

【0005】

【特許文献 1】特開平 7-206656 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明は、前記従来技術に鑑みてなされたものであり、使用者がヒリヒリとした痛みや灼熱感などを感じないように、使用者に適した清涼感の強度を有し、清涼剤を含有する化粧料を簡易かつ的確に選択することができる化粧料の選択方法を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、

10

20

30

40

50

(1) 清涼剤を含有する化粧料を選択する化粧料の選択方法であって、その化粧料を使用する者の皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に応じて、使用者に適した清涼感の強度を有する化粧料を選択することを特徴とする化粧料の選択方法、

(2) あらかじめ皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に応じて化粧料を分類しておき、その分類された化粧料の中から、その化粧料を使用する者の皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に該当する化粧料を選択する前記(1)に記載の化粧料の選択方法、

(3) 化粧料の清涼感を基準にしてあらかじめ皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に応じた化粧料を分類しておく前記(2)に記載の化粧料の選択方法、ならびに

(4) 清涼剤が、メントール、メンチルグリセリルエーテル、カンファー、メンチルラクテートおよびサリチル酸メンチルからなる群より選ばれた少なくとも1種である前記(1)～(3)のいずれかに記載の化粧料の選択方法
に関する。

10

【発明の効果】

【0008】

本発明の化粧料の選択方法によれば、使用者がヒリヒリとした痛みや灼熱感などを感じないように、使用者に適した清涼感の強度を有し、清涼剤を含有する化粧料を簡便かつ的確に選択することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0009】

本発明の化粧料の選択方法は、清涼剤を含有する化粧料を選択する化粧料の選択方法であり、その化粧料を使用する者の皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に応じて、使用者に適した清涼感の強度を有する化粧料を選択することを特徴とする。

20

【0010】

本発明においては、このように清涼剤を含有する化粧料を使用する者の皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に応じて化粧料を選択する点に、1つの大きな特徴がある。

【0011】

本発明者らは、使用者の肌の状態に適した、清涼剤を含有する化粧料を簡便かつ的確に選択することができる化粧料の選択方法を開発するべく鋭意研究を重ね、数多くの被験者に清涼剤を含有する化粧料を使用してもらったところ、意外なことに、化粧料を使用する者の皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に応じて化粧料を選択した場合には、化粧料を使用する者の肌の状態に適した化粧料を簡便かつ的確に選択することができることが見出された。本発明は、かかる知見に基づいて完成されたものである。

30

【0012】

〔1〕清涼剤を含有する化粧料

本発明で用いられる、清涼剤を含有する化粧料は、例えば、化粧料に清涼剤を添加することによって調製することができるほか、清涼剤と化粧料を構成する原料とを混合することによって調製することができる。

【0013】

化粧料としては、一般に用いられているものであればよく、本発明は、化粧料の種類によって限定されるものではない。化粧料としては、例えば、デオドラント剤、制汗剤、シェービング剤、プレシェーブローション、アフターシェーブローション、ボディローションなどの皮膚用化粧料、ヘアトニック、育毛剤などの頭髮用化粧料などが挙げられるが、本発明は、かかる例示のみに限定されるものではない。

40

【0014】

化粧料の剤型としては、例えば、リキッド、乳液、油液、ローション、クリーム、軟膏、エアゾールなどが挙げられるが、本発明は、かかる例示のみに限定されるものではない。

【0015】

清涼剤としては、例えば、メントール、メンチルグリセリルエーテル、カンファー、メンチルラクテート、サリチル酸メンチルなどが挙げられ、これらは、それぞれ単独でまた

50

は2種以上を混合して用いることができる。

【0016】

〔2〕皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別と清涼感との関係

本発明においては、化粧品を使用する者の皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に応じて、化粧品を選択する。これらの因子が清涼感の感受性に相関することが、後述する実施例に示すように認められている。

【0017】

(i) 皮膚温度

ヒトの皮膚表面の温度は、室温下において、通常、30～35℃の範囲内にあり、ヒトの皮膚表面の温度には個人差がある。本発明者らが研究をしたところ、清涼剤を含有する化粧品を皮膚温度が異なるヒトの皮膚に適用した場合には、皮膚温度と清涼剤を含有する化粧品の清涼感との間に相関関係があることが認められ、一般に、清涼感に対して敏感なヒトは、皮膚温度が低いことが判明した。例えば、皮膚表面温度が34.0℃であるヒトでは、清涼感の感受性が比較的低いのにに対し、33.5℃の表面温度を有するヒトでは、清涼感の感受性が高いことが有意に確認されている。

10

【0018】

このことから、清涼剤を含有する化粧品を使用する際、使用者の皮膚温度を1つの指標として、その使用者に適した清涼感が得られる化粧品を選択することができる。

【0019】

(ii) 経皮水分蒸散量

ヒトの経皮水分蒸散量は、通常、3～25g/m²/hの範囲内にあり、ヒトの経皮水分蒸散量には個人差がある。本発明者らが研究をしたところ、清涼剤を含有する化粧品を経皮水分蒸散量が異なるヒトの皮膚に適用した場合には、後述する実施例に示されるように、経皮水分蒸散量と清涼剤を含有する化粧品の清涼感との間には相関関係があることが認められ、清涼感に対して感受性の高いヒトは、経皮水分蒸散量が多いことが確認されている。例えば、経皮水分蒸散量が12g/m²/hであるヒトでは、清涼感の感受性が比較的低いのにに対し、経皮水分蒸散量が15g/m²/hであるヒトでは、清涼感の感受性が高いことが有意に確認されている。これは、バリア機能が衰えているヒトは、清涼感の感受性が高いことに基づくと考えられる。

20

【0020】

このことから、清涼剤を含有する化粧品を使用する際、使用者の経皮水分蒸散量を1つの指標とし、そのヒトに適した清涼感が得られる化粧品を選択することができる。

30

【0021】

(iii) 性別

本発明者らが研究をしたところ、後述する実施例に示されるように、清涼剤を含有する化粧品の清涼感と性別との間に相関関係があり、女性のほうが男性よりも清涼感に対して感受性が高いことが確認されている。したがって、清涼剤を含有する化粧品を使用する際、使用者の性別を1つの指標とし、そのヒトに適した清涼感が得られる化粧品を選択することができる。

【0022】

(iv) 化粧品の選択方法

以上のことから、清涼感の異なる、換言すれば清涼剤の配合量の異なる、複数の化粧品から使用者に適した化粧品を選択する際、使用者の皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別を指標とし、ヒリヒリとした痛みや灼熱感などを感じない、そのヒトに適した清涼感が得られる化粧品を選択することができる。

40

【0023】

以下に、例えば、清涼剤を0.8重量%含有する化粧品（以下、高配合化粧品という）、清涼剤を0.5重量%含有する化粧品（以下、中配合化粧品という）、清涼剤を0.1重量%含有する化粧品（以下、低配合化粧品という）および清涼剤を含有しない化粧品（以下、無配合化粧品という）から、使用者に清涼感が爽快感として感じられる化粧品を

50

選択する方法について説明する。

【0024】

まず、使用者の皮膚温度を測定し、例えば、その温度が34℃未満の場合のスコアを0とし、34℃以上の場合のスコアを1とする。

【0025】

次に、経皮水分蒸散量を測定し、 $12\text{ g/m}^2/\text{h}$ を超える場合のスコアを0とし、 $12\text{ g/m}^2/\text{h}$ 以下の場合のスコアを1とする。そして、女性の場合のスコアを0とし、男性の場合のスコアを1とする。

【0026】

これにより、合計スコアが3の使用者には高配合量化粧料を、合計スコアが2の使用者には中配合量化粧料を、合計スコアが1の使用者には低配合量化粧料を選択することができる。そして、合計スコアが0の使用者は、清涼感の感受性が非常に高いといえることから、無配合化粧料を推奨することができる。

【0027】

このように、その化粧料を使用する者の皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に応じて、使用者に適した清涼感の強度を有する化粧料を選択すれば、使用者がヒリヒリとした痛みや灼熱感などを感じないように、使用者に適した清涼感の強度を有し、清涼剤を含有する化粧料を簡便かつ的確に選択することができる。

【0028】

また、あらかじめ皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に応じて化粧料を分類しておき、その分類された化粧料の中から、その化粧料を使用する者の皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に該当する化粧料を選択すれば、使用者に適した清涼感の強度を有し、清涼剤を含有する化粧料を容易に選択することができる。その際、化粧料の清涼感を基準にしてあらかじめ皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別に応じた化粧料を分類しておく、使用者に適した清涼感の強度を有し、清涼剤を含有する化粧料を的確に選択することができる。

【0029】

〔3〕化粧料の清涼感の評価方法

なお、清涼剤を含有する化粧料の清涼感の評価は、例えば、(イ)清涼剤を含有する化粧料が付着した部位における神経の導電率を測定する方法(例えば、特開2004-542378号公報参照)、(ロ)清涼剤を含有する化粧料を付着させたときの被験者の心拍変動から、所定の周波数範囲にある低周波成分の大きさと、前記低周波成分よりも高い周波数範囲にある高周波成分の大きさを測定し、前記低周波成分の大きさと、前記高周波成分の大きさに基づいて、清涼感の評価する方法(例えば、特開2006-075364号公報参照)、(ハ)清涼剤を含有する化粧料を被験者の頸部の耳下部に付着し、清涼感を被験者の官能試験によって数値化させる方法(山本学志、外6名、「清涼感制御技術の開発」、第60回日本化粧品技術者会(SCCJ)研究討論会、2007年6月14日発表、および特願2007-110544号明細書)などによって行うことができる。

【0030】

前記清涼感の評価方法のなかでは、前記(ハ)の方法は、その操作が簡便であるとともに、清涼剤を含有する化粧料を被験者の皮膚に付着させることによって被験者が感じる清涼感の強弱を清涼感の評価基準に照らして定量的に精度よく評価することができることから、従来、感覚として捉えられていた化粧料の清涼感を的確に把握することができるという利点がある。

【0031】

したがって、前記(ハ)の方法により、清涼感の感受性が高いヒトの皮膚温度の領域と、感受性の低いヒトの皮膚温度の領域を確認することができる。また、清涼感の感受性が高いヒトの経皮水分蒸散量の領域と、感受性の低いヒトの経皮水分蒸散量の領域を確認することができる。さらに、性別により、いずれが清涼感の感受性が高い傾向にあるかを確認することができる。

10

20

30

40

50

【0032】

前記（ハ）の方法の概要を説明すると、清涼感を精度よく評価する観点から、被験者の頸部の耳下部、すなわち、皮膚分節C2ないしC3付近の側頸部（耳垂付け根から半径10cm以内の側頸部）に、清涼剤を含有する化粧料を付着させる。なお、皮膚分節とは、特定部位の脊髄と連絡する皮膚領域を意味する。

【0033】

清涼剤を含有する化粧料を皮膚に付着させる方法としては、塗布、貼付、噴霧などが挙げられる。

【0034】

清涼剤を含有する化粧料を皮膚に付着させる量は、通常、化粧料が付着する部位が該化粧料で覆われる量、通常、 $0.01 \sim 0.5 \text{ g/cm}^2$ 程度である。

【0035】

清涼剤を含有する化粧料を被験者の皮膚に付着させた後、該化粧料が有する清涼感を評価する。

【0036】

化粧料の清涼感の評価は、化粧料を被験者の皮膚に付着させ、化粧料が付着した部位における清涼感の強さを評価基準に基づいて被験者に評価してもらい、その評価の得点を集計することによって行うことができる。この化粧料の清涼感の評価方法を採用した場合、化粧料の清涼感を定量的に具体的な数値で評価することができる。

【0037】

化粧料の清涼感は、清涼剤の濃度差が小さい化粧料を判別することができる被験者で行うと、より精度よく評価することができる。より具体的には、清涼感の強弱を精度よく評価することができる被験者は、清涼剤の濃度が異なる化粧料を付着させた各試験用シートをそれぞれ被験者の頸部の左右の耳下部に貼付し、各試験用シートが貼付された部位において被験者が感じる清涼感を対比することにより、選別することができる。

【0038】

清涼剤の濃度差は、一方の化粧料における清涼剤の含有率A（重量％）と他方の化粧料における清涼剤の含有率B（重量％）との差の絶対値 $|A - B|$ （重量％）が、 $0.03 \sim 0.1$ 重量％程度であることが好ましい。

【0039】

かくして選別された被験者は、清涼剤を含有する化粧料が有する清涼感を適切に判断しうる者として認定することができる。

【0040】

以上説明したように、本発明の化粧料の選択方法によれば、使用者がヒリヒリとした痛みや灼熱感などを感じないように、使用者に適した清涼感の強度を有し、清涼剤を含有する化粧料を簡便かつ的確に選択することができる。

【実施例】

【0041】

次に、本発明を実施例に基づいてさらに詳細に説明するが、本発明は、かかる実施例のみに限定されるものではない。

【0042】

実験例（被験者の選択）

左右両側の耳下部を濡れタオルで軽く拭き取った、20歳代～30歳代の男性66名および女性36名の被験者を室温 $22 \pm 1^\circ\text{C}$ 、相対湿度 $50 \pm 5\%$ の評価用室内で10分間馴化させた。

【0043】

次に、清涼剤としてメントール0.01重量％およびエタノール10.0重量％を含有し、残部が精製水からなる化粧料100 μL を不織布〔二村化学工業（株）製、品番：TCF-404WJ-M、縦2cm×横2cm〕に含浸させ、試験用シートAを得た。

【0044】

10

20

30

40

50

一方、対比のため、清涼剤としてメントール 0.05 重量%およびエタノール 10.0 重量%を含有し、残部が精製水からなる化粧料 100 μ L を不織布〔二村化学工業（株）製、品番：TCF-404WJ-M、縦 2 cm×横 2 cm〕に含浸させ、試験用シート B を得た。

【0045】

試験用シート A および試験用シート B をそれぞれ被験者の頸部の右側耳下部および左側耳下部に貼付し、貼付時から 1 分間、3 分間、5 分間、7 分間または 10 分間経過時における清涼感の強さを以下の評価方法にしたがって評価した。

【0046】

〔清涼感の強さの評価方法〕

各被験者が以下の評価基準に基づいて各時間の経過時に試験用シート A および試験用シート B のそれぞれについて清涼感の強さを評価した。

【0047】

<評価基準>

- 0 点：清涼感をまったく感じない。
- 1 点：清涼感をかすかに感じる。
- 2 点：清涼感をはっきりと感じる。
- 3 点：耐えられないほど清涼感を強く感じる。

【0048】

次に、被験者全員の清涼感の全スコアを集計し、試験用シート A および試験用シート B ごとの各被験者の平均値（スコア）を求め、以下の被験者の選別基準に該当する被験者を求めた。

【0049】

〔被験者の選別基準〕

A：試験用シート A よりも試験用シート B のほうが清涼感が強いと評価し、試験用シート A と試験用シート B とのスコアの差が 0.5 以上であり、試験用シート B のスコアが 1 以上であると評価。

B：試験用シート A よりも試験用シート B のほうが清涼感が強いと評価するが、試験用シート A と試験用シート B とのスコアの差が 0.5 未満であると評価するか、または試験用シート B のスコアが 1 未満であると評価。

C：試験用シート A と試験用シート B とのスコアが同等であると評価。

D：試験用シート B よりも試験用シート A のほうが清涼感が強いと評価。

【0050】

前記評価を 2 週間の間隔をあけて 2 回実施し、以下の清涼感の強さの評価基準に基づいて、清涼感の強さを評価した。

【0051】

〔清涼感の強さの評価基準〕

A ランク：1 回が A であり、もう 1 回が A もしくは B、または 2 回とも B

B ランク：1 回が A であり、もう 1 回は C

C ランク：前記 A ランク又は B ランク以外のランク

【0052】

清涼感の強さの評価結果に基づき、高い精度で清涼感を識別することができる A ランクに該当する者および清涼感の識別能力があると判断される B ランクに該当する者の男性 35 名および女性 22 名を、清涼感の評価する際のモニターとして採用した。

【0053】

実施例 1（清涼剤の清涼感に関する男女比較）

前記で選ばれたモニターのなかから男性 14 名および女性 13 名を被験者とし、モデルローション（1-メントール 0.3 重量%、エタノール 40.0 重量%、精製水 59.7 重量%）をディスペンサー〔（株）吉野工業所製、品番：Y-150〕容器に充填し、被験者から 10 cm 離れた位置から、約 0.3 mL を各被験者の頸部の左側耳下部に噴霧し

10

20

30

40

50

、噴霧初期、ならびに噴霧から1、3、5、7、10、13、15、20分間経過時における清涼感スコアを調べ、男性および女性ごとにスコアを集計し、それぞれの平均スコアを求めた。その結果を図1に示す。

【0054】

なお、清涼感の評価は、前記「実験例（被験者の選択）」と同様にして行った。また、清涼感の評価基準は、下記6段階の基準により評価した。

〔清涼感の評価基準〕

0点：清涼感をまったく感じない。

1点：清涼感をかすかに感じる。

2点：「かすか」と「はっきり」の間。

3点：清涼感をはっきりと感じる。

4点：「はっきり」と「耐えられないほど」の間。

5点：耐えられないほど清涼感を強く感じる。

【0055】

図1に示された結果から、男性よりも女性のほうが高い清涼感スコアを付けることから、男性と女性とでは、清涼剤を含有する化粧料の清涼感の感受性に違いがあることがわかる。

【0056】

実施例2（経皮水分蒸散量および皮膚温度による影響）

前記「実験例（被験者の選択）」と同様にして、Aランクの清涼感の感受性を示す女性被験者11名、およびBランクの清涼感の感受性を示す女性被験者21名を選別した。

【0057】

各被験者の経皮水分蒸散量（TEWL）および皮膚温度を調べた。なお、経皮水分蒸散量は、経皮水分蒸散量測定装置〔コウレイジ・カザカ・エレクトロニック・ゲーエムベーハー（Courage-Khazaka electronic GmbH）社製、商品名：テワメーター（Tewameter）TM210〕を用いて測定し、皮膚温度は、皮膚温度測定器〔（株）佐藤計量器製作所製、商品名：PRINTING

THERMOMETER SK-7000PRT〕を用いて測定した。なお、測定部位は、清涼感の評価部位と同様の耳下部である。

【0058】

（1）経皮水分蒸散量と清涼感スコアとの関係

Aランクに属する被験者のTEWLの平均値を算出すると約 $15\text{ g/m}^2/\text{h}$ であった。これに対し、Bランクに属する被験者のTEWLの平均値は約 $12.5\text{ g/m}^2/\text{h}$ であった。その結果を図2に示す。図2は、被験者群と経皮水分蒸散量の平均値との関係を示すグラフである。

【0059】

図2に示された結果から、Aランクに属する被験者は、Bランクに属する被験者よりも経皮水分蒸散量が高いことから、清涼剤を含有する化粧料の清涼感の感受性と経皮水分蒸散量とに相関があることがわかる。

【0060】

（2）皮膚温度と清涼感との関係

Aランクに属する被験者の皮膚温度の平均値を算出したところ、約 33.5°C である。これに対し、Bランクに属する被験者の皮膚温度の平均値を算出したところ、約 34.0°C である。被験者群と皮膚温度の平均値との関係を図3に示す。

【0061】

図3に示された結果から、Aランクに属する被験者は、Bランクに属する被験者よりも皮膚温度が低いことから、清涼剤を含有する化粧料の清涼感の感受性と皮膚温度とに相関があることがわかる。

【0062】

以上の結果から、女性のほうが清涼感を強く感じる事がわかる。また、経皮水分蒸散

10

20

30

40

50

量および皮膚温度と清涼感との間には、相関性があることがわかる。

【0063】

以上説明したように、使用者の皮膚温度、経皮水分蒸散量および性別を指標とすることにより、そのヒトの清涼感に対する感受性を判断することができることから、清涼感の強弱が異なる、複数の化粧料から使用者に合った化粧料を選択する際、これらを指標とし、そのヒトに適した清涼感が得られる化粧料を適切に選択することができることがわかる。

【図面の簡単な説明】

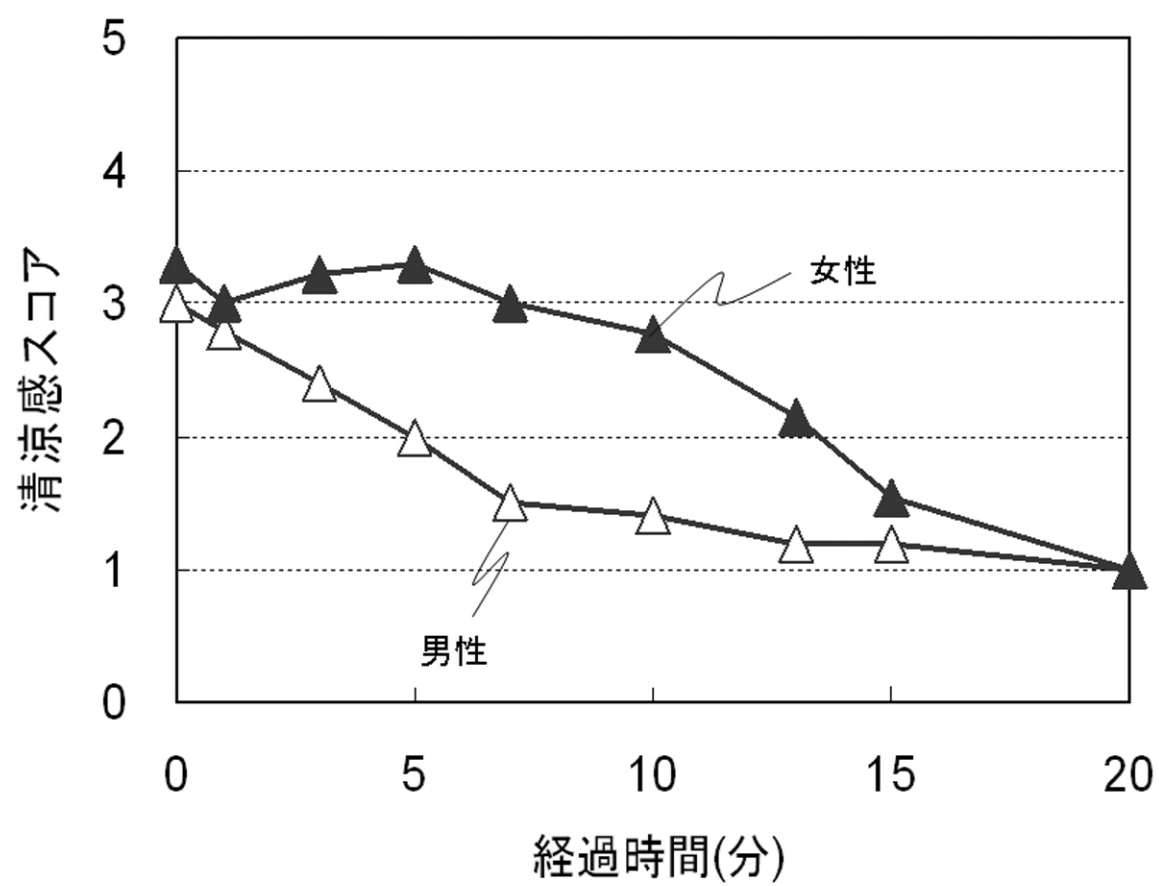
【0064】

【図1】実施例1における清涼感の強さの経時的変化を示すグラフである。

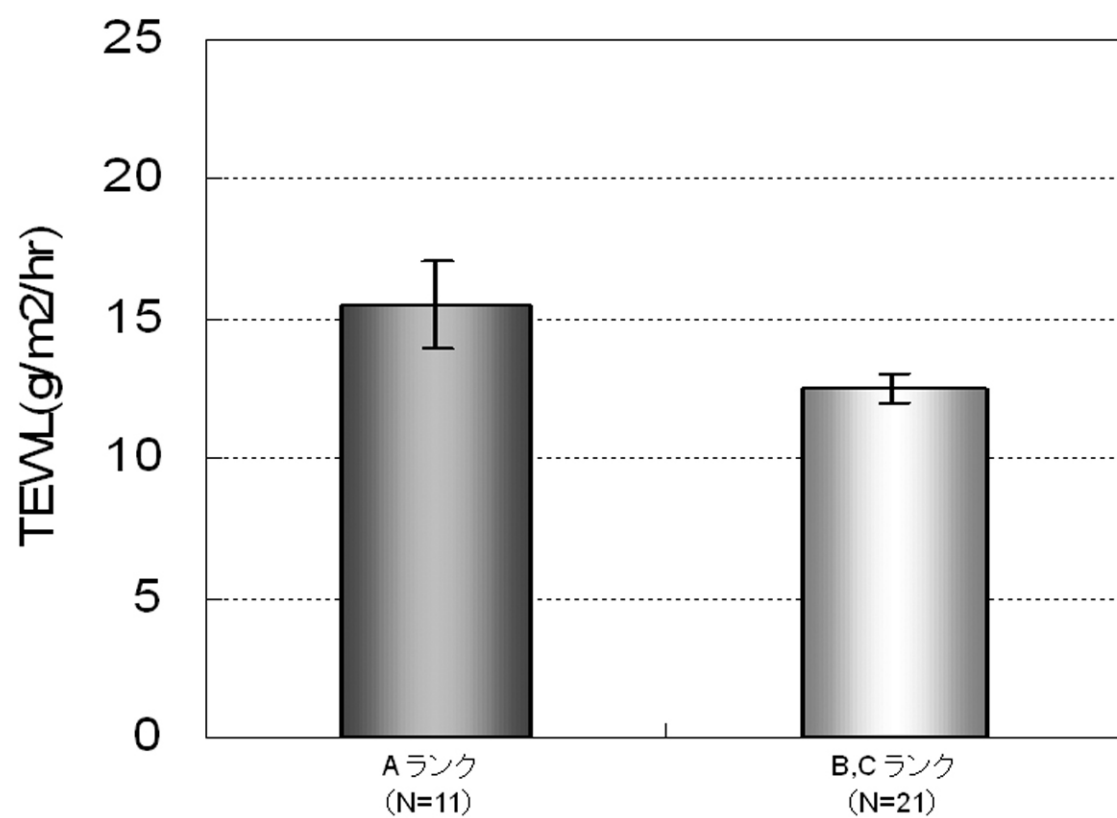
【図2】実施例2における被験者群と経皮水分蒸散量の平均値との関係を示すグラフである。 10

【図3】実施例2における被験者群と皮膚温度の平均値との関係を示すグラフである。

【図 1】

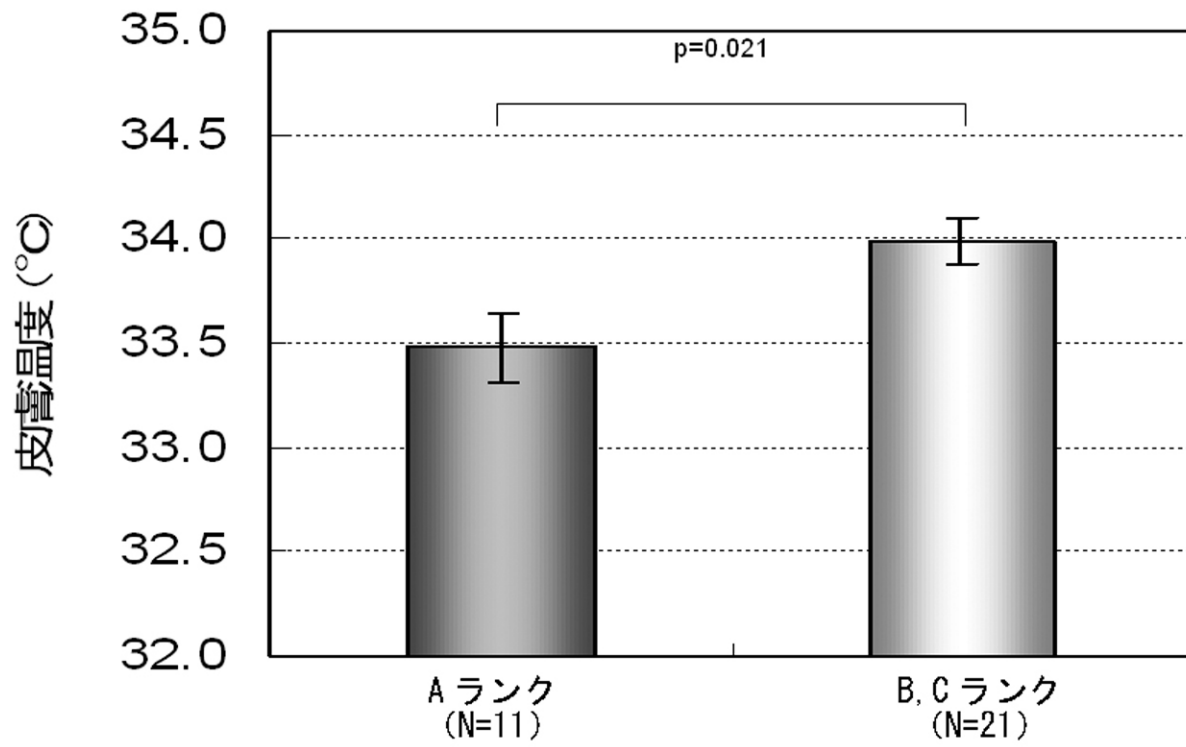


【図 2】



経皮水分蒸散量と清涼感の感度の関係

【図 3】



皮膚表面温度と清涼感の感度の関係

フロントページの続き

(51)Int.Cl. F I テーマコード (参考)
A 6 1 B 5/00 1 0 1 E

(72)発明者 畑井 千裕
大阪市中央区十二軒町 5 番 1 2 号 株式会社マンドム中央研究所内
F ターム(参考) 4C083 AC171 AC341 AD531
4C117 XA01 XB13 XE06 XE23

专利名称(译)	如何选择化妆品		
公开(公告)号	JP2009291397A	公开(公告)日	2009-12-17
申请号	JP2008147735	申请日	2008-06-05
[标]申请(专利权)人(译)	株式会社漫丹		
申请(专利权)人(译)	漫丹公司		
[标]发明人	村田陽子 三野浩二 遠藤祐子 畑井千裕		
发明人	村田 陽子 三野 浩二 遠藤 祐子 畑井 千裕		
IPC分类号	A61B5/00 A61K8/34 A61K8/33 A61K8/37 A61B5/01		
FI分类号	A61B5/00.M A61K8/34 A61K8/33 A61K8/37 A61B5/00.N A61B5/00.101.E A61B5/01.100		
F-TERM分类号	4C083/AC171 4C083/AC341 4C083/AD531 4C117/XA01 4C117/XB13 4C117/XE06 4C117/XE23		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：容易且适当地选择具有适合于使用者的清爽感觉强度并且含有清凉剂的化妆品材料，使得使用者不会感到刺痛或灼烧感等。提供一种选择化妆品材料的方法。 解决方案：这是一种选择含有清凉剂的化妆品材料的方法，该清洁剂根据皮肤温度，经表皮水分散量和使用化妆品材料的人的性别适合于使用者。并选择具有清爽感的强度的化妆品。 【选择图】无